

ふるさと 資料紹介

= ④1 =

古文書にみる
近世庶民のくらし⑨

鳩部屋

文政年間（江戸時代後期、

一八一〇年頃）のことです。

御鷹見廻り方から、鳥御法度

について申し渡すことがある

から関係の村々の庄屋は、印

鑑持参で、太田村の庄屋宅ま

で参上せよとの廻状が廻りま

した。関係の村というのは、

勝山、鳥（取）組、黒岩、加

茂野、伊（稻）辺、大杉、鷹

ノ巢、深田、太田、下古井、
上古井でした。

九月二八日午前十時、太田
の庄屋宅に行きますと、役人
から「最近、御鷹場や溜池、
川で鳥を『盗殺』するものが
いる。『御鳥見方役所筋之者』
が発見すれば、違反者として
その道具を庄屋預けにする。
村中のものに必ず周知せよ」
ということでした。

前記の村々は、木曾川べり
の村か、平地の広々とした林
を持つ村でした。古くから鷹
狩りの好狩猟場であつたよう
です。

一方、太田村には、鳩部屋
で鳩を飼い、藩から命令があ
ると一回につき十数羽の鳩を
差し出していました。鷹の餌
食にするものでした。

ふるさと資料紹介

今般に鳩部屋の庄屋宅に
御鷹見廻り方から廻状が廻り
ました。関係の村というのは、
勝山、鳥（取）組、黒岩、加
茂野、伊（稻）辺、大杉、鷹